

置農PTA会報

令和5年1月31日発行

第115号

〒999-0121 川西町大字上小松3723 TEL (0238)42-2101 FAX (0238)42-2103 URL <http://www.okitama-ah.ed.jp/>

●PTA会長・校長挨拶 … P2 ●生徒会・農業クラブ … P3 ●第1学年紹介 … P4～5 ●第2学年紹介 … P6～7
●第3学年紹介 … P8～9 ●農業クラブ活動報告 … P10 ●進路情報等 … P11 ●学科トピックス・編集後記 … P12



試練を越えて…



PTA会長 横山 淳

はじめまして。PTA会長を務めさせていただいている、三学年在学生徒の保護者で飯豊町在住の者です。

本年度は昨年引き続きコロナウイルスの感染や、八月に発生した豪雨による水害といった苦難が

続きました。その中で生物生産科の生徒による「和牛オリンピック出場」と、「三年ぶりの文化祭保護者公開」といった、明るい話題もありました。

生徒さんによる「和牛オリンピック出場」は、新聞等で拝見させていただき、写真でも輝かしい笑顔が垣間見え、本校関係者としてもたいへん誇らしく感じました。そして「三年ぶりの文化祭保護者公開」、娘が入学して初めて参観させていただきました。生徒さんとすれ違う度に挨拶していただいたりクラス内での出し物・販売会

による生徒さんの明るく素敵な笑顔や丁寧な対応が素晴らしく、短時間ではありましたが、気持ちよく、有意義な時間を過ごさせて頂きました。素晴らしい一時をありがとうございました。

PTA活動はコロナ禍において、活動がほとんど出来ていない状況ではありますが、次年度以降の役員の方々の活躍をご期待申し上げます。

最後になりますが、PTA会員の皆様方、先生方、同窓会の方々と、そして地域の皆様方のご理解とご協力に感謝申し上げますと共に、在校生の皆さんの今後益々のご活躍をご祈念申し上げます。



校長 鈴木 通明

社会人としてのスタートラインを前に進めるもの

置賜農業高等学校PTA保護者の皆様には、日頃から本校教育に対するご理解と共に、長引くコロナ禍の中、様々な変則的なお願いにも柔軟にご対応いただいておりますことに心より感謝申し上げます。

今年、校長室のホワイトボードにはお世辞にも達筆とは言いがたい筆字の2つの言葉を掲示しています。それは「交流」と「挑戦」〔せん〕の文字は『戦』ではなく敢えて『踐』にしています。です。学校は教育の場で、生徒が多くを学ぶところであることは疑いの余地のないところですが、その中にとっぴりと浸かっているだけでは生徒の変容はきわめて限定的だと私は思っています。そこで打ち出したのがこの2つの言葉です。

振り返れば、昨年度末に始まったマレーシアの高校生との情報交換、8月のゲリラ豪雨災害を受けて全校で行った復旧ボランティア、米沢興譲館生との研究連携活動、全国和牛共進会出場に当たって多くの方々からいただいたご指

導、タンザニアの野球チームとの交流など、生徒はこれまでなかった様々なふれあいを体験し、未知の領域に果敢に挑んだと思います。その後の生徒を見ると、外とかかわりで大きく成長したことが実感できます。

いずれは学校や家庭を巣立つ子どもたちですが、その時どんな「下地」を持っているかがかなり重要だと感じています。卒業後、皆同じスタートラインに立っているように見えて、実はその地点が、高校で何を身につけたかで違っており、その後の生活に大きく影響してきます。授業で習得した「知識・技能」も大切ですが、それ以上にスタートラインを先に進めるのが、様々な人との「交流」で培う対話力や柔軟な感性、そして、失敗を想定内として何かをやってみようという「挑戦」する心のエネルギーなのでしよう。

置農にはこんな力を養う環境ができつつあり、これが一層拡大することを期待します。

生徒会・農業クラブ



生徒会長
食料環境科三年
佐藤 風馬

今年一年間、生徒会へのご協力をいただきありがとうございます。昨年度までの良い伝統を引き継ぎ、全校生に充実した学校生活を送ってほしいと考えて「今を大切に」をスローガンとして掲げ、生徒会の運営を行ってきました。新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、置農祭の開催や、クラスマッチを二回行うことができたことをうれしく思います。全校生が丸となって思い出に残る行事を作り上げることができて最高でした。

さて、私は生徒会長として皆さんがより良い学校生活を送れるように生徒の声に耳を傾けることに力を入れて活動してきました。至らない点もあり、ご迷惑をおかけした場面もあったと思います。それでも一年間、生徒会活動に協力していただき、本当にありがとうございました。また、生徒会担当の先生方はじめ多くの先生方のご指導により充実した活動ができたと考えています。本当にありがとうございます。

今年度は良かった部分もたくさんありましたが、改善していかなければいけない点もありました。よかったところは引き継ぎ、改善点は協力し合いながら次年度の活動に活かしてほしいと願っています。生徒一人ひとりの自覚と行動により、これからも生徒会活動が発展し、置賜農業高校がより一層発展することを願っています。



農業クラブ会長
食料環境科三年
高山 卓真

今年度の農業クラブ活動はコロナ禍に対応して置農ファンクラブの実施回数を減らすなど、各行事等において感染予防対策をしなければなりませんでした。本校は農業クラブ山形県連盟の事務局となり、県連の各種会議等の運営を行いました。私は県連盟の会長として加盟校5校（上山明新館高校 村山産業高校 新庄神室産業高校 庄内農業高校 置賜農業高校）との意見交換を徹底して農業クラブ活動の活性化を図り、クラブ員がより充実した活動となるよう全力を尽くしてきました。先日、石川県を中心とした農業クラブ全国

大会では県連会長として出席しました。全国最優秀賞を獲得したプロジェクト発表と意見発表はとても素晴らしい、そのレベルの高さに圧倒されました。山形県は意見発表（分野Ⅱ類）において庄内農業高校が優秀賞を獲得しています。来年度は置農が各種発表や競技会で全国一を目標に頑張ってほしいと思います。県連事務局は2年間であり、来年度も引き続き務めます。これまで力を入れてきた繋がりを大切にしてよりよい活動にしてください。互いに農業クラブ活動に対する意識を高め合い活性化を図って頑張ってください。これまでの農業クラブ活動にさまざまな角度からご協力いただいたことに感謝いたします。ありがとうございます。これからも一層盛り上げていきましょう。



一学年紹介



一学年主任 中嶋 高彦

令和四年度もコロナに悩まされ続けた一年になりました。私たち学年団も置賜農業高校初赴任の先生や、初担任の先生などで様々不安の中でのスタートでした。生徒は元気いっぱいでしたが、一つ今後の課題でもあろうかと思いますが、人との繋がりや関係性を程よく構築していく術を学んでいく必要があるかと感じているところです。さて、この稿をしたためている現時点は年の暮れが迫ってきている時期です。ここまでの数か月



置農に入学して



生物生産科一年 鈴木 花奈

私は置農に入学して初めに感じたことは校内がとても広いことでした。学校生活も少しずつ慣れてきました。授業は置農だからこそ学べる

ことが多いと感じています。毎日が充実している学校生活を送ることが出来ます。学校行事では「置農祭」が一番印象的でした。初めての学校祭でも盛り上がりました。私達11のクラス展示はクラス全員で話し合い工夫して作品を創り上げることができました。全校生で取り組んだモザイクアート一人ひとりがパーツを担当して作りました。完成した大型のモザイクアートは学科の実習風景を表すものでとても完成度が高く達成感を感じました。クラスや全校生で協力してやりがいを感じました。また、収穫感謝祭もとてもよかったです。いのちのありがたさを感じ、実習で育てたお米や鶏肉はカレーにしていただくことができました。とてもおいしく食べることができました。

私は様々な行事とおして仲間と協力することの大切さを学びました。農場実習では今まで知らなかったことや実際に取り組んでみて分かったことが多くありました。このことをこれらの学習で活かしていきたいと思っています。高校3年間をとおして向上心を持って日々成長できるよう頑張っていきます。

高校生活で頑張っていること



園芸福祉科一年 橋本 綾寧

私が高校生活で頑張っていることは勉強です。なぜなら将来、保育士になりたいからです。学習の中でも音楽や体育、実習に特に力を入れて元氣よく生活できるようにイメージしています。ピアノでたくさん園児を元氣づけられると考えています。これからピアノの練習に力を入れたいと思います。また、園児と触れ合うことは体力が必要です。体育では一生懸命体を動かして体

を振り返りますと、一学期にはクラスマッチを経験し、一年生ながらなかなかの活躍を見せてくれました。また、各種大会でも一年生ながら頑張りを見せました。そのような中、高校生活で成長していくための第一歩を踏み出したわけです。二期には置農祭を経験しました。高校での文化祭はどのようなものなのかを感じたことでしょうか。各クラスみな一丸となって協力し合いながらクラス展示や、全校企画に取り組みました。何とか成功裏に終わったことで、仲間と助け合う心が少しでも芽生えたなら大成功だと思います。

これから、二年生になっていく過程の中でどのように大人になっていくか楽しみの一つでもあります。まだまだこどもの部分が多く見受けられますが、今後の成長を学年団は楽しみにしています。皆、置農魂を受け継ぎつつ前を向いて進んでいこう。

三年間、よろしく願っています

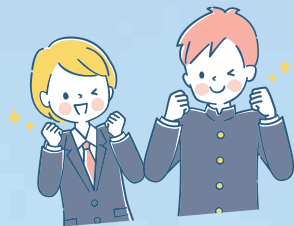
PTA 一学年部会長

二宮 弘明



一学年の部会長を務めさせていただいている高島町在住の二宮と申します。OBということもあり、母校への恩返しも兼ねてお引き受けしましたので、よろしく願っています。

入学から今日までの学校生活を通じ新一年生は多くの仲間を作り、充実した日々を送っていると思われまふ。依然としてコロナ禍にあり諸活動が制限される場面がありますが、PTA活動等に対し保護者の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



第1学

力をつけていきたいと思っています。

農場実習で学んでいるトマト栽培や花壇づくりなどの知識と技術を活かして、園児と共に野菜作りや花を栽培し食育や花育を実践しいのちの大切さを教えられるよう農業の専門学習にも力を入れていきます。入学当初は不安や心配が多くありまふ。実習に取り組むことは花の種類や野菜の栽培方法を実践的に学べ、少しずつ知識を身に付けています。さらに、実習で育てたダイコンやキャベツをその場で食べた時、そのおいしさと共に育ててきたことを思い簡単にはできないことだと学ぶことができました。販売実習も行いコミュニケーションを図る大切さを感じています。これからは1年生で身に付けた経験と知識を基にしっかりと頑張っていきたいと思っています。

WAKU WAKU WORK かなでんじや

食料環境科一年 佐原 空太



この体験をとおして学んだことがあります。私は「SWS東日本株式会社」と「ナノトップ」を体験しました。SWS東日本株式会社の体験

では自動車の外見からでは見えない部品の構造について知ることができました。自動車は実に多くの部品からできていることをあらためて分かりました。製造過程で部品にテープを巻くものがあります。この巻く速さを競う大会があると聞き、実際に巻き方の時間を計りました。五十嵐先生は13秒、私は30秒でした。この技術を教えてくださった担当の方の説明はとても分かりやすく、実際に巻いてみると楽しくできました。ナノトップではSONYの製品を製造しており、カメラの製造工程を教えてもらいました。製造しているスマートフォンのカメラレンズで撮影したら細かいところまできれいに写っていました。ナノトップの技術は精密な部品を正確に製造しているとよく分かりました。説明は丁寧で優しく教えてくださいました。この仕事に就いても早く仕事を覚えられたいと思いました。2年生ではインターンシップがあると聞いています。その時のために学んだことを活かしたいと思っています。



一学年紹介

一学年主任 六戸香葉子



学年目標を「自律・自主・協働」とし、自らよく考えて規範に沿って行動する。自分の意志によって

積極的に行動する。一人ひとり違った強みを持った生徒たちが共通の目標のために責任と役割を分担して共に励まし合って成果を共有する。そんな学年であってほしいと令和四年度のスタートを切りました。

一学期には三日間のインターンシップを経験しました。新型コロナウイルス禍にありながら地元企業では快く生徒たちを受け入れていただき、多くの生徒が希望する職業を体験することができま

年紹介



修学旅行を通して

生物生産科二年 保科 大河



修学旅行は3泊4日で京都・奈良・大阪を巡り、各地の伝統や文化を学ぶことができました。1日目は朝7時に米沢駅を出発し京都へ向かいました。最初に三十三間堂を訪れ数千人もある千手観音を見学しました。国語の授業で写真を見ていましたが実際に見ると一つひとつの観音様の表情が異なり驚きました。また、金閣寺にも行き金箔を貼る技術はとてすごいものだと思います。2日目は奈良県に移動し奈良公園と法隆寺へ行きました。奈良公園では滅多に見ることのできない鹿と触れ合いながら敷地内にある東大寺へ向かいました。あの有名な「奈良の大仏」を目の当たりに歴史を身近に感じる事ができたと思います。次に法隆寺を訪れました。法隆寺は聖徳太子が建てたということだけではなく「日本最古の木造建築」としても知られている建物です。修理はされているものの昔のままで残っていました。3日目はユニバーサルスタジオジャパンに行きました。お昼前から6時半頃までの長い間、全員が満喫していました。4日目は日本で2番目に大きい水槽がある海遊館へ行って修学旅行を終えました。

修学旅行を通して日本の古い歴史や建物に触れ昔の人々の建築技術のすばらしさを知ることができました。これまで日本で築かれてきた文化を大切にしながら守り発展させていくことの重要性を考えさせられました。

修学旅行を通して感じたこと

園芸福祉科二年 佐藤 友哉



今回の修学旅行は京都・奈良・大阪を回った3泊4日の旅でした。私はその中で印象に残った場所が3つあります。一つ目は清水寺です。

清水寺に着いたのはちょうど夕方だったので夕日が見えてとても綺麗でした。観光に来られている方の中には海外の方もいて清水寺の人氣が伺われました。清水寺からは京都市内を一望

した。生徒たちは緊張しながらも真剣に取り組み、自ら気付かなかった興味や適性を知ることでもでき、企業の皆様から積極的に真摯な働きぶりを高く評価していただいたことに感謝をしなければなりません。

二期の置農祭では、昨年以上に手の込んだ大掛かりな装飾を各クラスで企画しました。生徒たちは放課後遅くまで協力し合って制作し、それぞれの得意な部分で力を尽くして各クラス見事な作品を作り上げてくれました。また、修学旅行でも準備の段階から積極的に活躍してくれた実行委員長をはじめとする委員たち、そして学年全員の意欲的な態度、規範意識の高い言動はとても立派で頼もしいものでした。

これからの高校生活は、進路実現に向け、どれだけ具体的に行動できるかです。学年団は保護者の皆様と共に、みんなの思い描く「未来」に近づけるよう、励まし、支えていきたいと考えています。

一学年部会長として

PTA二学年部会長

黒澤 淳



学年部会長を務めさせてもらい二年目になります。コロナ禍の影響を受ける生活もまだ続いておりますが、学校行事も少しずつ出来るようになり、子供達は前向きに学校生活を送れているのではないかと感じています。

そして、子供達が安心してもっと楽しい学校生活を送れるよう、先生方、保護者の皆様方からのご協力とご理解を頂きながら、学年部会長として務めて参りたいと思いますので、何卒宜しくお願い申し上げます。

第2学



でき何枚も写真を撮りました。国宝を自分の目で見ることできてよかったです。二つ目は奈良公園です。入るとすぐに大きな門があり金剛力士像が二体立っていたのですがその迫力に圧倒されました。今にも動き出しそうと思えるほど躍動感があるその立ち姿に感銘を受けました。千八百年前も昔の人々がこの金剛力士像の力強さを表現できたことに驚きと感動を覚えました。三つ目は薬師寺です。薬師寺では建造物もさることながらお坊さんの講話の方が印象に残りました。講話はとても面白くためになりました。その中で特に印象に残っている話があります。薬師寺に君たちのご先祖が関わっていたかもしれないので、しっかりと手を合わせてほしいということでした。自分の先祖が千年も前に見ていたと考えると何故かうれしい気持ちになりました。無事に修学旅行を終えることができてとてもよかったです。

インターンシップから学んだこと

食料環境科二年 須貝 海夕



インターンシップでは「職場体験ができる」「社会人としてのマナーを学べる」「就職活動に役立つ」「コミュニケーション力が高まる」など様々なことが学びになりました。私がこのインターンシップで特に学んだことはコミュニケーションの大切さです。インターンシップを通して様々な年齢層の方々への接客や職場の方々とのふれあいの中で学校ではなかなか学べない体験をしました。普段の生活の中で祖父母以外での高齢者とふれあう場面はあまりなかったので社会では沢山のふれあいを大切にしなければならぬと思いました。このインターンシップで一番心に残っているのは働いていらっしゃる方々が和気藹々と笑顔で仕事にメリハリを付けながら取り組まれていることです。例えば休憩時間であってもお客様がいれば接客する柔軟な働き方はとてもかっこよく思えました。3日間という短い期間ではありましたが、自分に足りなかった点などを見出すことができました。この経験を活かしてこれからの学校生活に活かしたいと考えています。そして立派な社会人になれるよう頑張っていきます。



三学年紹介

三学年主任 吉田 康輔



三学年は時間を守る、あいさつをきちんとするなど基本的な生活習慣を身につけている生徒が多いです。出席率も非常に高いです。当たり前のことを当たり前にやる生徒が多いのだと思います。当たり前のことですが簡単ではありません。すごいことだと思います。

また、やるときは集中してやりきる気持ちを持った生徒も多い学年です。行事などで夜遅くまで残って練習や製作に取り組み、充実感を共有している様子が随所に見られました。部活動で成績を残した生徒もいました。これは最後まで全員が集中して取り組んだ結果だと思います。

すべて最初からできているわけではありませんでした。色々な注意を受け、挫折もしたからこそ成



年紹介

授業と部活動

生物生産科三年 長澤 拓人



私は、これまでの授業と部活動について振り返ります。授業では、二年生から果樹を選択し、三年生で果樹専攻班として学習しています。果樹は季節によって作業内容が異なり、一年を通して忙しく、それぞれの果樹によって栽培管理も違うため大変な部門です。しかし、桜桃やブドウなど様々な品種や果樹に直接触れたり、実際に試食したりできるため、他部門にはない魅力のある部門だと思っています。その中でもブドウでは、プロジェクトの一環として「天晴」という品種について深く学習し、実際にブドウ農家への研修や山形県庁に出向き、果樹の専門家の方と直接会って天晴の栽培に関して、理解を深めました。また今年度も果樹部門がプロジェクト県大会へ出場することが確定したため、それに向けて記録簿作成などに取り組んでいます。

次に部活動についてです。私は約三年間を通して、アグリサイエンス部検定班に所属し、活動中に表計算準一級や文書デザイン二級など計四種類の検定試験に合格することができました。その他にも、ソフトの基本操作やコンピューターの知識なども学べました。またこれらの検定試験に合格することで、将来の進路実現への糧とすることができました。私は、このようなパソコン操作は、今後の社会の中で役立つ知識・技能だと思っていますので、就職先でも農業の知識に加えて、応用していきたいと考えています。

課題研究で得たこと

園芸福祉科三年 菅井 歩夢



私が高校生活で頑張ったことは沢山あります。その中で特に印象に残っているのは課題研究です。課題研究では、六人のニオイ木メンバーと協力しながら研究を進めてきました。授業だけではなく、放課後や休日でも登校して実験や調べ学習に取り組んできました。

最初に取り組んだのはニオイ木を増殖するための無菌培養です。失敗の連続でしたが、担当の先生や大学の教授、研究所の方々のご指導をいただいて試行錯誤を繰り返し、六人全員で協力して計画を立て直したり実験を繰り返したりと、諦めずに取り組み続けました。その結果、培養を成功させることが出来ました。また、ニオイ木を普及するため、消費袋の開発にも取り組みました。美術の先生の助言をもとに山形県の無

長できたのだと思います。根底にはみんなの素直さがあつたからこそ成長できたのだと思います。三年の生徒は社会に出て恥ずかしくない基本姿勢ができています。胸を張って生活していいほしいです。

学年目標は「義理に固く、人情に厚い筋の通った立派な人間」になろうでした。この目標に向かい、頑張つて取り組んでいる生徒が多いなと感じています。その成果一つが一般就職全員一発合格だと思っています。まだ伸びしろのある前向きな姿が常にみられる三年生です。全員が希望する進路の達成に向けて担任団は応援していきます。

肝胆を砕く

PTA三学年部会長

石崎 正志



三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんが入学した当初から、新型コロナウイルス禍の中の行動で大変だったとは思いますが、様々な行事を色々な行動制限の中で少しずつ行うことができました。

例年と違った修学旅行、置農祭の保護者公開、様々な校外活動、各部活動での活躍等を工夫しながらも行えたと思います。ただ、思った通りの行動を行うことができず悔いが残った方もおられると思います。そのような中でもお互いの知恵を絞りながら、新たな視点やいろいろな発想で、仲間たちと考えながら進めていく手法を学べたのではないのでしょうか。持てる力をすべて出しかけて頑張るという意味の「肝胆を砕く」という言葉がありますが、これから先、様々な場面で壁にぶつかることもあると思いますが、三年間仲間と経験した事を今後の人生の糧として、皆さんがますます活躍されることをご祈念いたします。最後になりますが校長先生をはじめ先生方、関係者の皆様には三年間ご指導ご鞭撻いただきました事に心より厚く御礼申し上げます。

第3学



高校生活を振り返って

食料環境科三年 安部 善映



私は、高校生活三年間で様々な事に挑戦し学んできました。その中で、特に印象に残っていることが二つあります。

一つ目は生徒会活動です。私は今年度、生徒会副会長として活動してきました。生徒会副会長として日々、生徒の模範になるような行動を心掛けて生活し、行事の運営や企画でも全校生に楽しんでもらえるような企画を仲間と協力しながら考えました。特に、今年の文化祭は二日間行つたため準備が大変でした。しかし、仲間と声を掛け合いながら楽しく準備することが出来たため、良かったと思います。また当日は進行もスムーズに進み、全校生の楽しんでいる姿を見る事が出来たので良かったです。こうした活動を通して、行事の企画や運営、人の前に立ち指示する事の難しさを学ぶと同時に、自分が考えたり準備した事でたくさんの人に喜んでもらえる事へのやりがいや達成感も学ぶ事が出来ました。

二つ目は、課題研究などを通して地域との関りです。私は、課題研究で子ども食堂や子ども農園などの活動を行いました。活動の中で地域の人と関わる事ができ、川西町の現状を知る事が出来ました。また、課題研究だけでなく、こまつ市やダリヤ園の災害ボランティアに参加するなど、地域の活動に積極的に参加し、町に貢献することができたので良かったです。こうした活動に参加する事で町の良さや課題を知る事ができ、それが町役場で働くという進路実現に大きく繋がったと思います。日頃から地域との関りが深い置農だからこそ実現できた進路だったので置農で学ぶ事が出来て本当に良かったと思います。

今後は、高校で学んだ事を発揮して社会人として頑張りたいと考えています。また、卒業までの残り少ない期間を全力で過ごし、最後の高校生活を楽しみたいです。

農業クラブ活動報告



県平板測量競技会



県意見発表会

会場 上山明新館高校

県プロジェクト
発表会



県農業情報処理
競技会



全国和牛能力共進会

(鹿児島県開催)



東 北 大 会 (青森県開催)



置農ファンクラブ活動・ちゃぐりんキッズ



日々の努力があなたを作る

進路指導部長
岩松 祐子



今年度ももうすぐ終わりが近づいてきました。3年生にとっては、進路実現の大切な年であり、年度初めての準備から内定・合格まで怒涛の一年間だったのではないのでしょうか。

最初の準備段階のガイダンスで私からお話したことは、「進路活動の流れに頑張るって乗ること。進路について家族や先生と話をし、見事に目標を達成することができた。」でした。3年生はしっかりと実行し、面接練習を重ねたり、放課後に残って勉強したり、考えや目標を自分の言葉で話せるよう面接練習を重ねたり、放課後に残って勉強したり、いくつものテーマでレポートをまとめ口頭試問の対策をしたりと努力する姿が多く見られ、本当に素晴らしいです。頑張った過程があった結果でした。

1、2年生は毎日の学びの中で様々な力をつけながら、ガイダンスや体験といった進路行事を通して、自分の進路について具体的に考えが深まっていますか？置農生の強みは、ここでもしか体験できない農業実習等を通して身に付く「先を見通す力、臨機応変に行動できる力、生きる力」です。協力により人間的な成長も見られます。3年生の成功は、それまでに力をつけてきた上で成されたものでした。ぜひ学校生活の一つ一つ丁寧に送り、自ら興味のあることを体験したり、資格取得に挑戦したり、勉強に力を入れたり「今の自分」を一つアップグレードするつもりで行動してみよう。

学科別 進路決定先

【県内企業】

- ・朝日金属工業(株)
- ・インテグリス・ジャパン(株)
- ・(株)うめや
- ・AGCデイスブレイグラス
- ・米沢(株) (3)
- ・(株)EDEN
- ・クアーズテック(株)小国事業所
- ・(株)蔵王カンパニー
- ・佐川急便(株)
- ・(株)殖産工務所 (2)
- ・美容室バルファン(株)シダ
- ・フコク物流(株)
- ・(株)ブランドオレ
- ・(株)マイウエイ
- ・マクセルフロンティア(株)
- ・米沢事業所
- ・(株)メガネット
- ・最上テック(株)

- ・山形県農業共済組合
- ・山形食品(株)
- ・(株)山田鶏卵ウフウカンパニー
- ・(株)米沢食肉公社
- ・(株)フコク
- ・(株)三ツ和

【県外企業】

- ・(株)三ツ和
- ・川西町役場
- ・自衛隊 (2)

【四年制大学】

- ・駿河台大学 法学部
- ・東北公益文科大学 公益学部
- ・山梨学院大学 スポーツ科学部

【短期大学】

- ・羽陽学園短期大学
- ・幼児教育学科

- ・桜の聖母短期大学 生活科学科
- ・東北文教大学短期大学部 子ども学科
- ・現代福祉学科
- ・トヨタ東京自動車大学校 自動車整備科
- ・山形県立農林大学校 畜産経営学科 (3)

【専門学校】

- ・国際テクニカル調理製菓専門学校 調理経営学科
- ・仙台スーパースーツ&カフェ専門学校 パティシエコース
- ・専門学校東北動物看護学院 愛玩動物看護学科
- ・日本自然環境専門学校 環境創生農学科
- ・山形調理師専門学校 調理高度技術科 (4)

PTA総会（オンライン開催）

2022年4月29日



避難訓練（火災）

2022年5月6日



芸術鑑賞（落語）

2022年10月31日





学科トピックス



生物生産科トピックス

学科長 上野 真二

畜産部門の生徒と和牛「ひかり号」が、鹿児島県で開催された全国和牛能力共進会に出場しました。本大会は全国の優秀な和牛を一堂に集めて、改良の成果やその優秀性を競う大会で、和牛のオリンピックと呼ばれています。ひかり号は見事優等賞を受賞し、これまでの生徒たちの学習と努力が実を結びました。

また、作物部門の生徒が長野県で開催された「米・食味分析鑑定コンクール：国際大会 全国農業高校お米甲子園」に出場しました。生徒たちが丹精込めて管理してきたアイガモ農法で作られたコシヒカリは、見事「金賞」を受賞し、置農米を再び全国にPRすることができました！

園芸福祉科トピックス

学科長 齋藤 慎吾

年度初めの学科集会で、「園芸福祉科のフィールドは360度。全てが君たちの学びのフィールドです。」と、こんな話をしました。その話しを受けてかどうかは分かりませんが、園芸福祉科の生徒のみなさんは今年度も広く活躍してくれたと思います。園芸福祉科の生徒であるからには、「園芸における福祉の役割」と「福祉における園芸の役割」のそのどちらも突き詰めていく姿勢を常に持って学習を積み重ねていってほしいものです。

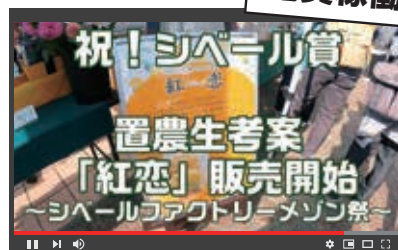
食料環境科トピックス

学科長 成澤 久美

山形大学、イオン東北や県測量協会、官公庁との協働の他に米沢栄養大学や山形県社会福祉協議会などとの連携を始めることができた。また、高校生山形のうまいもの米粉商品開発コンテストにおける東北日本ハム賞を受賞、小松小學校で米粉パン教室を開催し交流するなどプロジェクト学習を通じた地域活動によって、生徒の対話力が向上し農業学習に対する理解を深めることができた。さらに、農業クラブプロジェクト発表東北大会優秀賞など上位入賞を果たした。

普段の授業や行事の様子をUPしています

今回本会報で紹介
しきれなかった
学校の様子が
沢山見られます



YouTube
置農チャンネル
絶賛稼働中！

チャンネル登録待っています

http://www.youtube.com/channel/UCtZ3AFaYE0tF8-EgXYmmvYg?sub_confirmation=1



表紙の写真

- 置賜豪雨災害ボランティア活動
- 置農祭全校生徒集合

★編集スタッフ

横山 淳・木村 茂・塚田 寿宏	石崎 正志・黒澤 淳・二宮 弘明	菅井 竜一・竹田 勝雄・富樫ひとみ	鈴木 雅典・川崎 義満・手塚 春貴	佐野 雅哉・鈴木 真人・鈴木 隆英	遠藤 忠樹
-----------------	------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------

皆さまからのご協力をいただきまして、本会報を無事に発行することができました。

本号では各学年の内容を中心に農業高校ならではの農場実習や学校行事での躍動などを紹介させていただきました。本校生徒が生き生きと活動している一端を感じていただければ幸いです。

結びに、編集にあたり原稿執筆やお力添えをいただきました皆さまに感謝申し上げます。

広報部長 菅井竜一

